

第13回区民車座集会意見交換内容

※ 読みやすさ等のため、文意を損なわない範囲で、重複表現、言い回しなどを整理しています。

- 1 開催日時 平成27年4月25日（土） 午後2時から午後2時35分
- 2 場所 中原区役所5階 会議室
- 3 参加者等 参加者4名、傍聴者12名
- 4 概要

（1）市長挨拶

土曜日に、お集まりいただきましてありがとうございます。今日もまた、いいやり取りができればと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

（2）意見交換

A 障害者スポーツについて

藤田さん：視覚障害者の藤田ともうします。本題に入る前に市長に一言お願いします。昨年盲導犬の医療費について意見を述べさせていただきました。あの時に医療費補助について、本当に医療費が高くて飼えないのかどうか調べて報告しますと言われましたが、未だに市長からの報告がありません。どうなっているのでしょうか。お聞かせください。

本文に入ります。視覚障害者のスポーツ並びに障害者のスポーツについて、東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。それに向けて川崎市の障害者がパラリンピックに日本代表として参加できるように、練習場を確保していただきたい。今、障害者が練習する場所がありません。健常者のスポーツ施設は区ごとにありますけど、障害者のスポーツ施設がない。練習したくても練習できません。今、盲人卓球（STT）をやっているが、月に2回くらいしか練習できません。そのために、全国大会とか関東ブロックあるいは各大会に参加しても一回出て敗退、帰ってきます。悔しいですけど、練習不足でどうしようもありません。スポーツ施設が各区にあるので新しいのを造ってくれとはいいません。せめて中原区あるいは真ん中あたりで、隣の高津区のスポーツセンターを使わせていただけないか。優先的に。そうしないと練習できません。いくら練習しようとしても。盲導犬を持っていると、単独で行くと入らせていただけません。盲導犬を管理できるなら来ていいと言うが、やっている間、管理できません。入ることはできません。卓球の場合、同じ部屋にいるからいいが、トレーニングマシンはやらせていただけないのでお願いいたします。

市長：藤田さんのご質問ありがとうございます。前回、この中原でやった時、藤田さんから補助犬のことについてご質問いただいて、すみません。事務方からお答えがいつていると思

っていました。大変失礼しました。早急に、週明けにはしっかりとした形の文書でお答えさせていただきますと思います。(※1)調べました。いろんな形で調べまして、だいたい答えは聞いております。

それと、障害者の皆さんがスポーツをやる専用の施設がないということですが、これから川崎が2020年のオリンピック・パラリンピックに向けてどういう世界観というか、形でやっていくのかということで、川崎はパラリンピックに対して力を入れていこうという事を今言っている。川崎パラムーヴメントということで、オリンピック・パラリンピックのためにやるのではなく、これから市政100周年、10年後くらいの川崎の姿が、障害のある方もない方も混じり合ってちゃんと暮らしていけるような社会を目指すために、中間にあるオリンピック・パラリンピックに向け何ができるのか。いろんな方たちを巻き込んでやっていきたいと思っています。その中で、今、申し上げたように障害のある方もない方も混じり合っている社会は、その障害があるからこの施設という形ではなくて、健常者も使っている、障害のある方も一緒に使うという形の感覚で社会を作っていかなければいけないと思っています。ですから、いろんな制約があると思いますけども、今ある施設、それから川崎市内で民間の事業者が持っておられる例えば体育館、あるいは施設をもう少しオープンに貸していただけないかということ、これから一緒になって考えていきたいと思っています。川崎はやはり、土地が少ないものですから、大きな箱の施設を建ててというのは非常に難しい条件がある。今あるものをどうやって使っていくかなと考えていかなければいけない。

実は、障害者スポーツの日本の宝、成田真由美さんはずっと何十年も通われている民間のプール施設、そこは、バリアフリーなのかと言ったらバリアフリーじゃないんです、バリアアリーなんです、と言われた。しかし、施設がバリアアリーでもその周りにいる人たちが、ちょっと補助をする、手助けすると、まさに心のバリアフリーこそ大切なんだと、そのことを川崎市民が、みんな当たり前のようにできるという社会を作っていかなければいけないと思います。藤田さんも障害をお持ちということでもありますから、是非これからいろんな意見を私共に聞かせていただいて、それを広く市民の皆さんと共有できていければと思っています。よろしくお願いします。介助犬のことについては大変失礼いたしました。あらためてお詫び申し上げます。

藤田さん：盲人卓球なんですけど、一般卓球と違って台がでかいんです。一枚板ですから。とどろきアリーナに一台あるんですよ、中原区では。だけど、とどろきアリーナでは何年も使っていません。盲人卓球の台って40～50万円するんですよ。だけど全然使ってなくて倉庫に入りっぱなしで、そのうちにダメになっちゃうんじゃないかと思うので、サブアリーナを使って練習させてもらえないかと思うんです。川崎にもSTTの日本一の方がいるんですよ。女性の方で。全国大会で何度も優勝している方が。だけど残念ながらその他の人たちはできない。うまくならない。その方は、東京とか横浜とか、あちらこちら行って練習しているからうまくなっているんですけど、我々は行こうといってもなかなか難しいものから、よろしくお願いします。

市長： ありがとうございます。実は、川崎には障害スポーツ団体というのがないんですね。実は早いうちに、この川崎市で障害スポーツ団体の立ち上げをということで、話を少し内々に進めさせていただいております。その中で、どういう施設利用の在り方がいいのかと、今、藤田さんは卓球の話をされましたけれども、健常者のスポーツの方でも、今それぞれのスポーツ施設って限られているものですから、いくら待っても場所が取れないという厳しいご意見いただいております。バランスの中でしっかり考えていきたいと思っております。それぞれの、例えば卓球がどうだとか、あるいは、どのスポーツがどうだということ、いろいろ調整が必要になってくると思います。ですから、卓球だけは藤田さんに言われたのでやりましょうかとはならないので、全体の中で調整していきたいと思っております。

B 高齢者について

勝田さん： 初めまして、この会に参加させていただく勝田です。神奈川県下でも医療保険料が高い川崎です。医療費をたくさん使うのは子供と年寄です。高齢化時代、今のままだと医療費はますます増えていくでしょう。高齢者の医療費削減のために何ができるのか高齢者の一人として考えました。それは、高齢者が元気であることです。数年前から地域のボランティアとして一人暮らしの高齢の方に集まって頂き、歌を歌ったり体を動かしたり、おしゃべりしたり、一緒にご飯を食べたりということをしています。その経験から、年を取っても人間は家の中でポツンとしているよりも、他人と交わり、分かち合うことによってたくさん元気をもらうんだということを実感できました。このような集いがせめて毎週開けたらと思うのですが、月にたった一度です。理由は場所がないからです。以前、市役所に問い合わせましたら、老人の集まる場所は中学校の学区に一か所ちゃんとありますよ、と言われました。足腰が弱くなった高齢者は、どんなに良いところがあっても遠くでは参加できません。そこで、公共の施設の一部なども利用して小さな単位で高齢者が気軽に集まれる場所づくりを提案したいと思っております。地域ぐるみで高齢者を見守る仕組みを考え、高齢者が元気でいられるように、ボケも早期発見できるようにすることが、医療費削減できる道だと思っております。

市長： 勝田さん、ありがとうございます。月に一回そういった場を作っていただいていることに感謝申し上げたいと思っております。場所がないという話ですね、今、地域包括ケアシステム、これから川崎で作っていきますけども、勝田さんがおっしゃった中学校区単位に一つ、実はすごく距離があるんですね。実際高齢者の方が、そんなに歩くのかといたら難しいと思います。地域包括システムの懇話会とか会議をしていると、もう少し身近なところで立ち寄ったり、ちょっと話をしたり、お茶を飲んだりというものが欲しいというお声は非常に多いです。私もそういうものが需要だと思っています。それが、公共でできるかということ、そうではないので、地域の中に公共施設、あるいは民間の施設も含めて、どううまく活用できるかというのを、これから地域包括ケアを進めるにあたって、そういう場を形成していかなければと思っています。

例えば小学校も地域差いろいろありますけれども、空き教室がないところもあれば、まだ

空いているところもあるし、学校も利用が限られていてちょっと勿体ないという思いもあるんです。今までは、学校は教育委員会のものだという感覚でいると思うんですが、しかし市民の財産であると思っているんです。地域の財産でありますから、どうやってうまくそれを活用することができるのかという事を教育委員会も交えて、その小さい地域の中で、どういう資源をうまく連携活用していくかということの本気で考えないと、超高齢社会のような状態に今から急激になっていきますから、迎えられないと思っています。課題認識は全く一緒だと思っています。

勝田さん：前の女性の区長さんのときに直訴したことがあります。全然聞いてもらえませんでした。場所がないっていうのは、公費は無理だろうなということは分かりました。うちの近くの公的機関を見回しましたら近くに平和館があります。ここに通ってくるのに、そこに自治会館があります。自治会館は時々使っていますけど、カーテンが閉まって使っていない日も結構あるんです。ですから、ああいう公的機関の場所を週1回、3時間くらい決めておけば、他の時間は貸して他の人に使っていただいてもいいですよ。そういうふういきめ細かく見ていけば場所があると思うんです。誰がやって下さるのかよくわからないので、今日は市長さんに直訴したいと思いました。

市長：先ほど申し上げた地域包括ケアシステムの話も、各区地域によって事情がすごく違うんですね。ですから、それぞれ区役所中心に、区ぐらいの単位でどうやって行くのかを決めていく、さらにもっと小さな地域で、どんな公共施設があって利活用できるのかを決めていく。各区地域によって違うので、市全体でこうやりますといっても、実態と合っていないから意味がないと思っているんです。正にボトムアップで形成していく。実はこの高齢社会のための地域包括ケアじゃなくて、地域がそういう形でまとまると、子供たちの教育とか、あるいは子育てだとかに直結していく、同じ話なので。地域づくりだと思っています。そういう意識でやっていきたいと思っています。

C 交通について

酒井さん：酒井と申します。昨年もこの場でお願いをさせていただきましたが、川崎市聴覚障害者情報文化センターの近くにバス停を設置してほしいという要望をさせていただきました。今年もお願いをしたいと思っています。バス停が近くにあるという事をお伺いしたので確認しましたところ、井田中学校の近くにバス停がございました。ですが、時刻表をみますと、朝と夕方にはバスはあるんですが、日中帯にはバスはありませんでした。昼間にもバスを走らせてほしいと思っています。情報文化センターには聾者がたくさん来ます。元住吉駅ですとか、小杉駅から大変遠くて苦労しています。井田中学校の近くのバス停、そこであれば歩いて10分くらいで行けるかと思えますけれども、ぜひ便を増やしていただければと思います。情報文化センターは、川崎市内にただ一つの聴覚障害者が利用する拠点となっている施設ですので、たくさん利用しています。交通の便が大変悪いので、高齢の方

が増えています。バスを是非走らせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

市長：ありがとうございます。昨年も同様のご質問いただきました。私もあれから、何回もその前に行っておりますので、情報文化センターの前、国際交流センターの前の所は太い道ですけれども、そこに続く道はものすごく狭い道路になっていまして、そこは道路交通法上、バスが走ることができないことになっています。では、どうすればよいかという話なんですけれども、市営バスのバス停からすごく遠いですよね。酒井さんのおっしゃっていただいたように、臨港バスの停留所は近いんですけども朝と夕方しか走っていないということで、その課題はものすごく認識しています。臨港バスの交通事業者の皆さんにもお話していかなくちゃと思いますけれども、課題は認識しているんですがなかなか難しい問題なんです。ご理解いただきたい。私は事情をよく理解いたしましたので、事業者の皆さんにもお話をしていきたいと思っております。(※2)

酒井さん：朝と夕方はありますけれども、昼間せめて、一時間に一本でも二本でもバスがあればいいなと思っています。

市長：お気持ち、受け止めさせていただきました。

D 環境について

原さん：初めて参加させていただきます。中丸子から参りました原と申します。よろしくお願いいたします。私は、中丸子に生まれ育って50年以上中原区に住んでいます。最近川崎を含め武蔵小杉が、全国区にすごく有名になってきています。川崎は川崎ラゾーナ、武蔵小杉は再開発のせいで、かなり有名になってきています。その中で、私がちょっと思ったのは、この武蔵小杉を日本一きれいな街として情報発信をしていきたいと思って。要するに、たばこの吸い殻だとかごみだとかそういうのがひとつ落ちていないと、そういう理想的な街になったらいいな、と思っております。ディズニールンドのことを例に挙げると、あそこは常に何もなくてもごみが落ちていなくても清掃員がごみをパパッと拾って清掃する。道路に色を付けて、ごみが落ちると目立つようにする、そういう対策を取っているみたいです。公共の街に関しても、そういうことができれば、少しはごみが減るのかなと思っています。実際今日、早起きをして、向河原から武蔵小杉周辺ちよつとごみを拾ってみました。かなりたばこのカスも多くて、これはまだまだ足りないのかなということも感じましたし、そこでなんか区として行政として対策ができてみんなが協力できるようなことができていくと、もっともっときれいな街になっていくと感じております。

市長：ありがとうございました。実は中原区の区民会議で、後期のテーマとしてどうやって自分たちの街を自分たちできれいにしていくかということテーマにご審議をいただいて、まさに原さんがおっしゃったようなことを、自分たちで実践していこうというのをや

っていただいています。

昨年度、武蔵小杉のエリアマネージメントの皆さんとポイ捨てをやめましょうとか、あるいはごみ拾いみたいなことも一緒にやってきたんですが、定期的にそういう活動をしていただいている人たちをもっともっと色々な地域で作っていく必要があるんです。それからご指摘いただいたような、ちょっとデザインを変えてみるとかというのもこれからの街づくりにとても必要な視点だろうと思っています。

川崎区では落書きがすごく目立つので、書かれたらいちいち市の職員が行って消す作業というのをずっと繰り返しているんです。これって本当にイタチごっこみたいな話で、今おっしゃったディズニーランドのように、とにかく落書きの期間をものすごく短くするっていうためには、行政だけじゃなくて地域の皆さんの力がすごく必要なものですから、一緒にコラボレーションしていきたいなと思っています。ただ書かれたら消すということから、更にもうちょっと先の話をしていかなきゃいけないし、ごみにしてもたばこのポイ捨てにしても全く一緒のことだと思っています。

武蔵小杉の駅前のたばこの喫煙禁止エリア、昨年拡大をいたしまして、結構広範囲に広がっています。それでも、まだ足りないというお声を聞いたり、あるいは、たばこのマナーについては市長への手紙でも繰り返しいろいろなところで言われています。吸う人も吸わない人も気持ちよく共存できるような環境にしていかななくてはいけないと思っていますので、先程申し上げた区民会議のみなさんとも一緒に問題を共有してコラボしていこうと思っています。

原さん：区民会議、多分2月2日の議事録だと思うんですけど、それを私も拝見しました。街が汚くなると犯罪も増えるというようなこと、例えば、アメリカのダウントウン、スラム街が汚くなっていたのできれいにしたら、犯罪も少なくなってきた。こういうような事例もあるみたいですし、市長がおっしゃったように落書き、これはイタチごっこかと思えますけれども、それを放置することによってどんどん増えていってしまうということもあり得るので、絶え間なく努力を、市民のみなさんの協力を得てやっていけばいいと思いますので、ぜひその辺を強くしていただければと思います。以上です。

市長：ありがとうございます。落書きもそうですし、街の花壇を造っていただいているボランティアの人とか、こういう活動ってものすごく大きいと思っています。むしろそういう活動を気持ちよくやっていただいけるような環境づくりというものをしっかりやっていきたいなと思っています。ありがとうございます。

(3) 総括

市長：ありがとうございます。今日は参加者、結果的に4人ということで車座集会始まって一番少なかったケースなんですけども、非常に建設的な意見をいただいて本当にありがとうございます。ちょっとまだ物足りないかと思いますが、各区同じルールでやっているも

のですから、申し訳ありません。区民車座集会は各区2回やってきまして、いろんな課題も見えてきました。それを改善して、もっといい車座集会というか、ざっくばらんな意見交換ができる体制にして、より良い形にしていきたいと思いますので、今後ともよろしくお願ひしたいと思います。市民のみなさんに、まちづくりの事に関心を持っていただき、自分たちのまちは自分たちでつくっていこうと実践されている方々もいらっしゃいまして、本当に心強く思った次第です。本当に今日はありがとうございました。

(※1) 4月28日藤田さん宛てに、補助犬に関する調査内容について書面で御報告しました。

(※2) 4月30日酒井さん宛てに、御要望を交通事業者（川崎鶴見臨港バス株式会社）に早急に伝える旨を改めて書面でお伝えしました。